



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp
令和6年10月11日(金)発行

特別号

災害は起こりうるもの その時に備えた総合防災訓練の1日

校長 相賀 直

今年、1月1日に発生した能登半島地震、7月の東北地方の豪雨、8月8日の日向灘での地震を受けて発表された南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）、9月の能登豪雨など、地震や風水害が続いたり、初めての発表がなされたりしています。災害で被災された方々におかれましては、一日も早く安心した生活が戻ることを願っております。

本校では、9月27日（金）から28日（土）に渡り、全校児童・生徒及び教職員を対象とした総合防災訓練、両部門高等部1年生を対象とした一泊二日宿泊防災訓練を実施しました。

総合防災訓練は、様々な体験的な訓練の場を学校内外に設け、児童・生徒が、学年単位などのグループで各コーナーを巡り、災害が起きたときの対応について学ぶというものです。府中消防署朝日出張所、府中市防災危機管理課、武蔵野の森公園の皆様が実演し教えてくださいました。

午後は、学校にいるときに大地震が発生したとの想定避難訓練の後、3日間程度学校で過ごし帰宅可能になったという設定の引渡し・引取り訓練を行いました。保護者の皆様の御協力に感謝します。

教職員対象の初動訓練では、新たな取組として、トヨタモビリティの協力により、ハイブリッド車の給電の実演をしていただきました。5日間、1,500ワットの電力供給能力があることを知りました。

両部門高等部1年の生徒は、宿泊防災訓練に参加しました。よく状況を理解して、非常食を食べ、夜は静かに寝入って過ごすことができていました。

安心・安全な学校づくりを大きな柱としている本校において、毎月の訓練に加え、このような総合的な訓練を年に1回経験しておくことは、児童・生徒にとって、万が一災害に遭った時に落ち着いて行動し、自分のできることを見つけて行動できるための契機となると考えています。

次年度もさらに充実させてまいりたいと思いますので、御意見等お寄せいただきましたら幸いです。引き続き、御理解・御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

本校の防災教育について

生活指導主任 主幹教諭 梅景 靖之

今年、元日から大きな地震が発生し、夏は日本各地で水害があり、東京でも災害はいつ何時発生してもおかしくない状況にあります。本校では教職員の研修や訓練はもちろんのこと、児童・生徒が自ら様々な危険から身を守るための力や知識を身に付ける「防災教育」をととても大切にしています。毎月想定を変えながら実施している地震、火災、水害、竜巻、Jアラートに関する避難訓練や今回紹介する総合防災訓練など、地域と連携した実践的な授業・訓練に力を入れています。学習や訓練の様子は本校ホームページでも紹介していますので、是非御覧ください。

今後も、児童・生徒の自助・共助・公助の力の向上、地域と連携した防災教育の充実に努めるとともに、本校が、災害発生時に地域に貢献できる校内体制の構築に努めてまいります。

◆学習について

>安全教育



◆学校生活

>教員研修



<総合防災訓練>

(1) 起震車体験・放水訓練

府中市防災危機管理課、府中消防署朝日出張所の皆様に講師を依頼し、起震車体験・放水体験をしました。児童・生徒からは「怖かったけど、机の下にもぐって安全だった!」「ホースをしっかりと持てた!」などの感想がありました。実際に体験することで、防災への意識を高める姿が見られました。



(2) 福祉避難所展示

府中市防災危機管理課の職員の皆様に講師としてお招きし、福祉避難所での過ごし方について学習しました。パネル写真を見ながら実際の避難所での様子を見たり、簡易ベッドや簡易トイレを体験したりしながら、「もし、自分が避難所を利用することになったら。」という具体的なイメージをもつことができました。



(3) 救命救急の見学・体験

府中消防署朝日出張所の消防隊の方に講師を依頼し、実演していただきながら、災害時における人命救助の方法やAEDを使用しての心肺蘇生について学習しました。各学部の実態に応じて、消防隊の方に教わりながら、倒れている人を見つけて助けを呼ぶ、心臓マッサージやAEDを使用するなどの体験もしました。実際に心臓マッサージを体験した生徒は、「思ったよりも力があるな。」と実感していました。



(4) 消火器体験

府中消防署朝日出張所と府中市消防団第三分団の方々に講師を依頼し、消火器の扱い方を訓練機を通して教えていただき、消火器体験を行いました。生徒たちは「火事だー!」と叫んだ後に、教わった手順に従って正しく消火器を扱い消火することができました。「急いでー」「頑張っー」など活動中はお互いを応援する活発な言葉が生徒から聞こえてきました。火事を発見した時、自分が消火しないといけない時を想定して学習できました。



(5) 災害発生時に役立つ「知恵」「工夫」

都立公園協会の職員の皆様に講師としてお招きし、身の回りにあるビニール袋や新聞紙で、ポンチョやスリッパの制作をしました。新聞紙を2枚重ねて頑丈にしたり、足のサイズに合わせて小さくしたり、工夫を凝らしながら主体的に活動に取り組むことができました。



(6) 非常用トイレ設置訓練

武蔵野の森公園では非常用トイレの設置訓練を行いました。グループごとに、公園職員さんをはじめボランティアの方の指導の下、5基の非常用トイレを設置しました。また、井戸から水を引き、溜めた水で設置したトイレの洗浄をする様子も見学しました。体験後には生徒から質問をしに行き、公園によって違う点や非常用トイレについての知識を増やすことができました。



(7) 防災の学習

各部門、各学部・学年で「東京マイタイムライン」「防災ノート」「防災について」の視聴覚教材等を使用し、防災の基礎知識を学習しました。また、高等部は「東京マイ・タイムラインセミナー」にて水害の避難方法の学習についてVRを使用し、適切な避難の仕方について学習することができました。



<避難訓練>

今回の避難訓練は、震度6弱の地震が起こり避難の必要性が出たことを想定して実施しました。訓練の中では、発災により校舎内に通行できない場所を各棟で設定し、放送にて周知、児童・生徒はその放送をよく聞いた上で、それらの場所を避けた避難経路を考えたり、教員の指示をよく聞いたりして避難しました。また、避難困難な生徒を想定し、車いす等の器具を使用して避難をする訓練も合わせて行いました。8月に行った「災害時避難困難者対応研修会」で得た知識を生かし、安全に生徒を避難・誘導することができました。その他にも、各棟の情報を正確かつ迅速に本部に伝え、児童・生徒の避難誘導をよりスムーズに行えるよう無線を活用した安否確認や避難誘導の訓練、また、マチコミメールを活用し、保護者の皆様と連携をした通信訓練等も実施しました。最後に、訓練のまとめとして、大きな地震が起こった際は、すぐには帰宅せず、帰宅経路の安全確認ができるまでは学校で過ごすこと、そして、安全確認が取れた後に引き取り者が迎えに来て帰宅することも合わせて学習し、引き取り・引き渡し訓練へとつなげました。有事の際を想定した今回の訓練では、児童・生徒と共に教職員一人一人が危機感をもって臨みました。今後もいざという時に落ち着いて行動できるよう、実践的な訓練を実施していきます。

<引取り・引渡し訓練>

今回の訓練は首都直下の地震が発生し、地震発生から3日間学校で過ごしたと想定したうえで実施しました。全校に関わる大規模な訓練となりましたが、児童・生徒一人一人が教職員の指示をよく聞き、落ち着いて行動を取ることができました。また、保護者の皆様も、指定された時間や、引渡しの方法を御理解いただいたことで、スムーズな引渡しを行うことができました。皆様の御協力のおかげで、無事に訓練を終了することができました。ありがとうございました。

<教職員向け災害時初動訓練>

有事の際には、その場にいる教職員一人一人の判断や適切な行動が求められます。いつでも、どんなときでも、誰でも、災害時における初動がとれるよう、教職員を対象に、災害時の初動訓練を実施しました。いつ起きてもおかしくない大規模災害に対して、このような訓練を積み重ね、引き続き、児童・生徒の安全に努めてまいります。

(1) 災害時帰宅支援ステーション設置訓練

B部門小学部・中学部教職員対象に、災害時帰宅支援ステーションの設置訓練を行いました。必要な物品を確認した後、実際に受付の設置、配布する飲料水や簡易トイレの運搬、各種案内表示の設置とそれを照らす投光器と発電機の運用を行いました。声を掛け合いながら、それぞれの役割を迅速に果たし、設置を進めることができました。いざというときのための知識や技術を学ぶことができ、有意義な研修になりました。



(2) 発電機運転訓練

A部門小学部・中学部教職員対象に、災害時に医療的ケアの児童・生徒が使用する発電機の場所や使用方法を学ぶ研修を行いました。医療的ケア部の教師が講師となり、使用方法やオイルについての講義がありました。実際に作動させるのが初めての教職員が悪戦苦闘する中、経験者が一回で成功させるとどよめきや拍手が起こりました。発電機の保管場所や、倉庫の鍵の管理方法も改めて確認するよい機会となりました。



<一泊二日宿泊防災訓練>

一泊二日宿泊防災訓練は、災害発生後、数日が経過し、一部の在籍児童・生徒とその家族、地域の住民等が敷地内において避難生活を送ることになった状況を想定しています。本校では、みんなで協力して安全に避難生活を送ることができる力を養うことを目指し、高等部1年生を対象に実践的な訓練を実施しています。

(1) 避難所運営ゲーム(HUG)(事前学習)

社会福祉法人府中市社会福祉協議会の方や府中市ボランティアセンターの方を講師としてお招きし、「災害」や「被災者」、「避難所」についてお話していただきました。また、「避難所運営ゲーム」や、「避難所運営の体験」を通して、実際に避難所で使用する物品の運搬、避難所となる体育館の区画作りを行いました。避難所運営の大変さや、運営する上で大切なことを知り、自分にできることを考える学習の機会となりました。



(2) 防災講演会(事前学習)

生徒の防災意識をより高めるために、A・B部門高等部1年生対象に府中市総務管理部防災危機管理課の山田克徳様をお招きし、地震災害から身を守るためにはどうしたらよいか、イラストなどを見ながら学習をしました。話を聞きながら頷いたり、自分の考えを発表したりしながら、災害に対する意識を高めることができました。



(3) 避難所の様子

A部門は男子が1年2組、女子が1年1組の教室を、B部門は男子が体育館、女子が会議室をそれぞれ避難所とし、生徒同士で協力して避難所に必要な物資を運び、就寝場所等の設営を行いました。また、午後6時から翌朝までは停電を想定した訓練を実施し、蛍光灯などの明かりの消えた校内で、ランタンの明かりを頼りに食事をとり、就寝準備などを行いました。午後9時には、就寝時に震度5強の余震が発生したことを想定した安全確保訓練も実施しました。生徒たちは、暗い中でも落ち着いて行動することができました。翌朝は6時に起床し、順番に朝食をとりながら、毛布やパーテーションを片付け、一泊二日宿泊防災訓練は無事に終了しました。



(4) 食事の様子

宿泊防災訓練の食事は学校の備蓄食です。被災時を想定し、電気を使えない中、ガスコンロを使って、普通食、中期食、初期食の3種類の食事を教員とボランティアさんで調理しました。ボランティアさんたちに「ありがとうございます」と声を掛けながら、暖かいごはんを受け取る生徒の姿、美味しそうに備蓄食を食べる生徒の姿が印象的でした。避難生活の中で、美味しい食事をとれるということは、とてもありがたいことだと実感しました。



お知らせ

「学校だより第8号」(定例号)は、10月31日(木)に発行いたします。